

池原 昭治の

さやまの今

第100話

入間川の八幡神社の鹿子舞



「鹿子舞」と書いて「ししまい」と呼ぶようになつたそうです。
鹿子舞も必見ですが、天満天神社、子ノ神社、諏訪神社などから鶴ノ木の長栄寺までの、鹿子舞一行の道中は壮観です。
金棒を先頭に、神官、氏子、山伏、花笠歌役、笛役、天狗、世話人そして三頭の鹿子とつづき、老若男女の見物人もそのあとにつづきます。五穀豊穡と悪疫退散を祈願し、人々の安全を祈る行事です。
市内では、いち早くはじまる秋のまつりです。



毎年、9月14・15日の両日は、入間川の八幡神社において「鹿子舞」の奉納が行われます。
「鹿子舞」は、昔は「獅子舞」と書かれておりましたが、明治維新の神仏分離令により、獅子は仏教に属することとで禁止されたそうです。
土地の者は、これを防ごうとこの土地では、獅子ではなく、神のお使いである鹿子と申します」といって難をのがれました。そして、その後は「鹿子舞」と書いて「ししまい」と呼ぶようになったそうです。



わかるかな？

今月の写真クイズ



写真は、今月の広報さやまの中に掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名の方に記念品をさしあげます。官製はがきで、広報課宛お送りください。

締め切り9月30日(当日消印有効)



【8月10日号の写真クイズの答え】

14ページ、PHOTO NEWSのみんなでデッキ絵をかこうの写真でした。

表紙の写真

9月1日の「防災の日」を前に、8月30日、市内全地区(8会場)で一斉に防災訓練が行われました。

当日は、8時30分の防災行政無線によるサイレンを合図に、各会場に自治会や防災関係団体など約3千800人が集まりました。そして消防署員、女性消防協力隊、消防団員の指導で初期消火や応急手当、パケツリレーによる消火などの訓練を実践しながらに行い、いつ起こるか分からない災害に備えました。

狭山の自然 99



ツツドリ

(カクコウ目カクコウ科)

全長32cmくらいのカクコウ、ホトトギスの仲間で、繁殖期には竹筒の口を手のひらでたたいたような声で「ポポ、ポポ」と鳴きますが、鳴くのは昼間だけのようです。身体の上

埼玉県生態系保護協会狭山支部
高橋昇さん(中新田)

面は灰褐色、腹は白で太く粗い横じまがあり、長い尾には白い斑があります。

日本には、夏鳥として渡来し繁殖します。山地の森林に棲息し単独で行動することが多く、樹上で主に毛虫や甲虫などの昆虫を食べます。産卵は、ほかの種類の小鳥の巣に行い、その小鳥にヒナを育てさせる「托卵」性を持ち、主にセンダイムシクイの巣を利用します。托卵された小鳥は、自分の卵がすべて捨てられてしまったことに気がつかず、一生懸命ツツドリの子を育てます。狭山市でも、秋の渡りの時期に公園などで観察されることがあります。